

都市再生整備計画 事後評価シート
田園共生都市形成地区

平成29年3月

埼玉県美里町


様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	美里町		地区名	田園共生都市形成地区			面積	2,670 ha	
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	654百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路事業(町道299,1164,102.2-13,1524,1526.2-5,443,1368,2096,1-9,1-1,1-2,173,466,479,152.2-10,2-20,260,1-8,1431号線,生活道路改善事業)								
			提案事業	地域創造支援事業(戦略的交通事故対策事業)								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし		削除/追加の理由		-		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		-
			提案事業	なし		-		-		-		
	新たに追加した事業		基幹事業	道路事業(町道105.2-2,1719,1897,1804,2-1,2434,1380 1-3,2203,293,2148,1944,1955号線)		身近な生活インフラの質的向上のため追加する。		影響なし		-		
			提案事業	なし		-		-		-		
	交付期間の変更		当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-		-		
変更			なし		-		-		-			
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	集落内道路の舗装率	%	55.0	H21年度	60	H27年度	61.1	○	あり なし	集落内道路を集中的に実施することで、ニーズが高まり計画的に事業が進んだ。	-
	指標2	交通事故発生率	件	6.54	H21年度	6.00	H27年度	5.95	○	あり なし	交通安全対策を積極的にPRして住民・警察と一体となり予防対策できた。	-
	指標3	子育て世代の住宅新築件数	件	-	H21年度	70	5年間	77	○	あり なし	寄居スマートIC開通や住宅地としての道路整備が進み、さらに定住補助制度の相乗効果があった。	-
	指標4								あり なし			
	指標5								あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況	<p>関越自動車道のポテンシャルを生かした地域づくりとして、(仮称)寄居PASスマートIC整備を進めていることで、美里町への企業進出の機運が高まりつつあり、このチャンスをとらえ埼玉県企業局による産業団地開発も事業が決定した。このことで、企業進出による地域の活性化と雇用強化が進み、同時に目標指標にもある身近な集落内道路の安全と生活環境整備を進めたことが、本整備計画目標にある企業誘致の強化と身近な生活インフラの質的向上にも大きく貢献した。</p>											
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	
	住民参加プロセス	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	

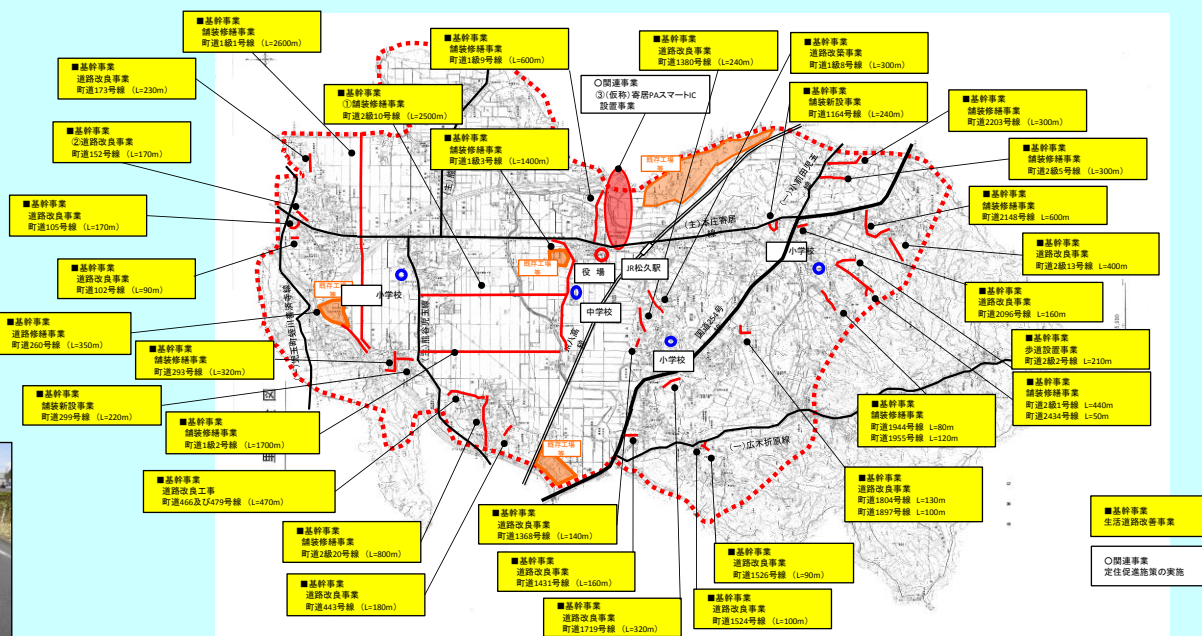
様式2-2 地区の概要


田園共生都市形成地区(埼玉県美里町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
都市基盤の充実による企業誘致の強化と身近な生活インフラの質的向上による持続可能なまちづくり - 広域幹線道路等とのネットワークを強化し、企業立地を支える社会資本整備を推進する。 - 生活道路など生活に身近な都市基盤の質的向上を図り、誰もが安全・安心・快適に生活できる環境づくりを行う。 - 定住人口を増やし、持続可能な都市づくりを行う。	集落内道路の舗装率	単位: %	55.0 H21	60.0 H27	61.1 H27
	交通事故発生率	単位: 件	6.54 H21	6.00 H27	5.95 H27
	子育て世代の住宅新築件数	単位: 件	0 H22	70 H27	77 H27
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H




①町道2級10号線舗装修繕事業







②町道152号線道路改良事業



戦略的交通事故対策事業



③(仮称)寄居PASMARTIC設置事業



ファーストマイホーム応援制度

まちの課題の変化

課題1: 企業立地を支える社会基盤整備→(仮称)寄居PASMARTICにより産業団地が決定した。今後は進出企業誘致や企業への地元雇用を増やす制度が必要である。
 課題2: 生活に身近な社会資本の質的向上→集落内道路を集中的に整備したことで子どもから高齢者に優しい道路整備が計画的に進められた。引き続き安心・安全な道路整備を行っていく。
 課題3: 定住人口の増加→住宅地として安心・安全に暮らせる道路環境の確保ができた。今後も更なる定住人口を増やすため町の賑わいや活力の向上を目指す必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・地域の活性化と雇用強化のため(仮称)寄居PASMARTIC周辺地域の土地利用見直しによる町の拠点地域整備を進める。
- ・自然を活かした魅力ある町にするため、自然交流イベントやハイキングコース整備などスポーツ・レクリエーション空間の活用をはかる。
- ・生涯を家庭や地域で自分らしく暮らすことができるような地域のコミュニケーションができる環境として、空き家等を利用した交流イベントや地域を支えるリーダーシップとなる人材を支え、世代を超えた地域の繋がりを目指す。
- ・街路が整備されたことによって安全な通学、快適な散歩などが実現可能となり町に活力が生まれた。その一方で気軽に集まれる場所が少ないことから、空き家の活用、交流促進、農産物の地産地消なども検討し、新しい住民も含めたまちづくりが広がる可能性がある。
- ・行財政資源の限られた範囲の中で、まちの変化による新たな需要や可能性を喚起するとともに課題についても適切に把握し、町民の意見をきめ細かく反映した自立的まちづくりを継続しておこなっていく。
- ・「心身ともに美しく暮らせる里づくり」を推進し、自然が豊かで伝統的な文化を守り育て、地域の愛着や誇りを高め、人口を維持できる持続可能な街づくりが期待される。